

脳卒中センター

II 学術論文・総説	論文名	研究者名	共同研究者	掲載誌名	出版年	巻数(号数);掲載頁	
	Oral Cnm-positive Streptococcus Mutans Expressing Collagen Binding Activity is a Risk Factor for Cerebral Microbleeds and Cognitive Impairment.	Watanabe I	Kuriyama N, Miyatani F, Nomura R, Naka S, Nakano K, Ihara M, Iwai K, Matsui D, Ozaki E, Koyama T, Nishigaki M, Yamamoto T, Tamura A, Mizuno T, Akazawa K6, Takada A, Takeda K, Yamada K, Nakagawa M, Tanaka T, Kanamura N, Friedland RP, Watanabe Y.	Sci Rep.	2016 Dec	9:6:38561. doi: 10.1038/srep38561	
	スバズムに年齢因子は関与するか? 高齢くも膜下出血症例は脳血管攣縮が少ないか? 脳血管攣縮をおこす危険因子を含めての検討	中戸川 裕一	内田 大貴, 山添 知宏, 福永親憲, 山本 貴道, 田中 篤太郎	脳血管攣縮	2017	(0912-7070)32巻 Page17-22	
III 学会発表	演題名	演者	共同演者	開催数 学会名	開催年月	開催地	
<指定講演・シンポジウム等>	脳血管攣縮発症の原因と治療の究明	中戸川裕一	天野裕貴、黒田直生人、内田大貴、山添知宏、福永親憲、田中篤太郎	第33回スバズムシンポジウム	2017/03/16	大阪	
<一般講演・その他の講演>							
	抗血栓療法中の出血性脳卒中2016年の傾向	田中篤太郎	黒田直生人、内田大貴、飯島健太郎、中戸川裕一、渡邊水樹、山添知宏、福永親憲	第10回静岡県血栓と血管フォーラム	2017/4/8	浜松	
	ダビガトラン内服中の再発性慢性硬膜下血腫患者に対して特異的中和剤であるイダルズマブを使用し良好な結果を得た一例	坂倉悠哉	福永親憲、天野裕貴、黒田直生人、飯島健太郎、中戸川裕一、田中篤太郎	第93回日本脳神経外科学会中部支部会	2017/9/16	三重	
	血栓回収療法によりADL・歩行が自立できたTrousseau症候群の1例	黒田直生人	平松久弥、大石知也、神谷実佳、天野裕貴、中戸川裕一、福永親憲、田中篤太郎	第33回日本脳神経血管内治療学会学術総会	2017.11	品川	
IV その他	職務等	氏名	共同者名	会議名等	開催年月	開催地	URL
	脳卒中の危険因子としての口腔内常在細菌、S. mutans	田中篤太郎		第5回Cerebral and Cardiac Disease Seminar	2017/3/1	東京 日本医科大学 橋板会館	
	DOAC時代における抗凝固療法の課題と展望	田中篤太郎		抗凝固療法を考える会	2017/5/17	浜松	